

新学習指導要領に基づく
評価の在り方について

児童生徒の学習評価の在り方について（報告）

- ①児童の学習改善につながるものにしていくこと
- ②教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③これまで慣例として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは見直して
いくこと

3つの評価機能とフィードバックの在り方

診断的評価

新しい学習に必要な学力や生活経験はどれくらいか

→学力不足を補う 単元計画の修正

形成的評価

授業過程における評価

→授業計画の修正 躓きを把握

子どもの見取りを
指導に生かす

総括的評価

単元終了時や学期末, 学年末の評価

→実践の反省 評定（成績）

場面を精選

資質・能力

知識及び技能

思考力, 判断力
表現力

学びに向かう力,
人間性等

評価の観点

知識・技能

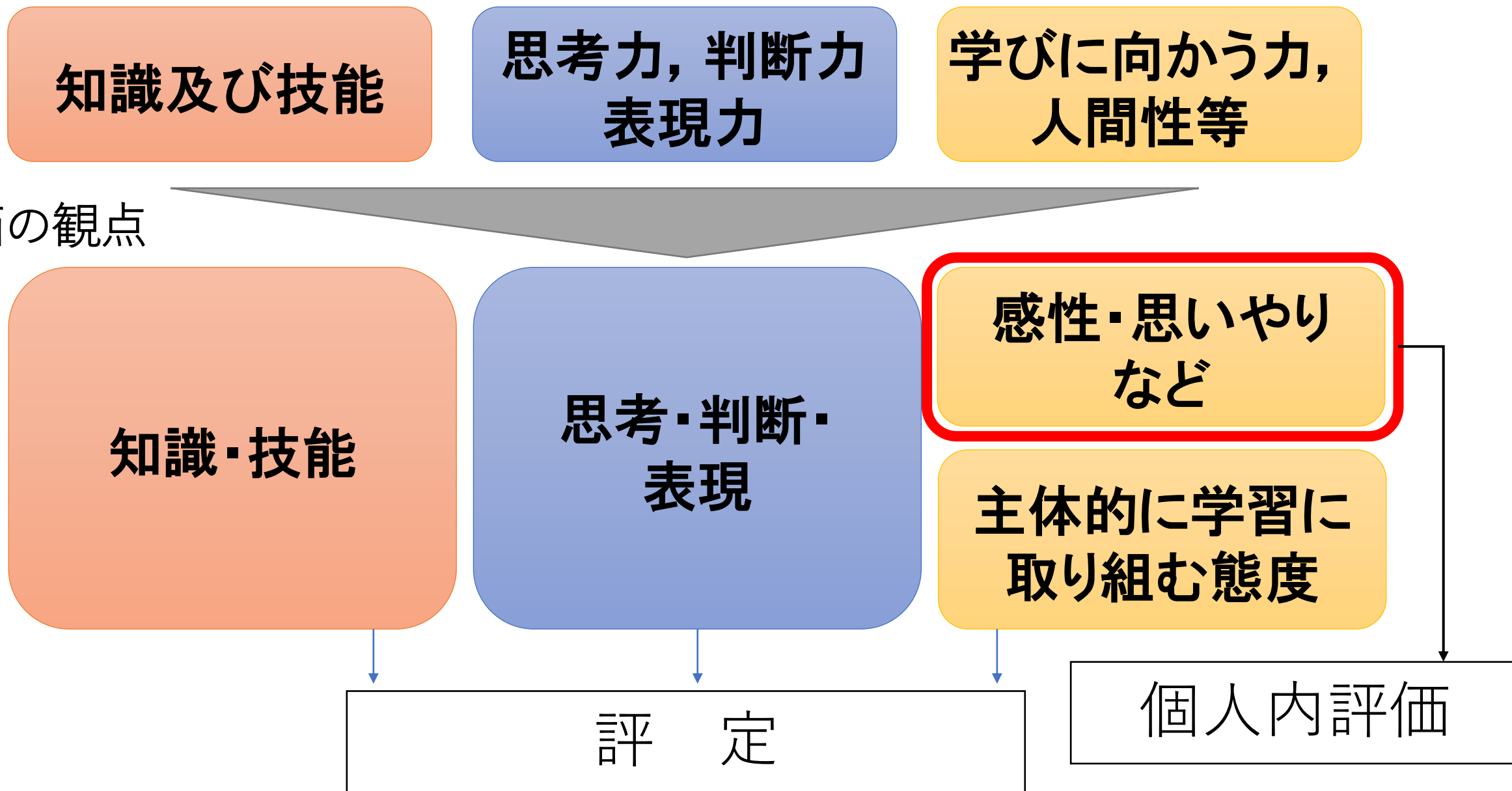
思考・判断・
表現

感性・思いやり
など

主体的に学習に
取り組む態度

評 定

個人内評価



「知識・技能」の評価について

「各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか評価するもの」（「報告」 p 7）

- ・ 「事実的な知識」だけでなく「概念的な知識」を捉える
ペーパーテスト
- ・ 文章で説明，表やグラフで表現
→実際に知識や技能を用いる場面を設ける

事実的知識

【社会】

楽市・楽座
関所をなくす

【国語】

尾括型の説明文
「ウナギのなぞを追って」
双括方の説明文
「見立てる」

【理科】

アサガオの育ち方
ツルレイシの育ち方

概念的知識

経済的な規制をなくすことは、商
工業者の自由な経済活動を促して
いる

説明文において重要なことは、文
章の初めや終わりに書かれている
ことが多い

植物は花が咲いたところに実がな
り，種ができる

「思考・判断・表現」の評価について

「各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、表現力、判断力を身に付けているか評価するもの」（「報告」 p 7）

- ・ 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い
作品の制作や表現等

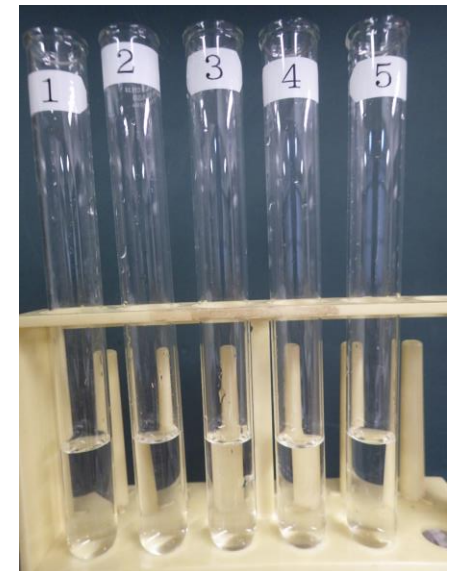
→多様な活動を取り入れる必要がある

パフォーマンス課題

日常の生活場面など、様々な知識や技能を使いこなすことを求める評価方法（西岡、2016）

試験管に入れた食塩水，石灰水，アンモニア水，塩酸，炭酸水の5つの水よう液があります。試験管にラベルをはりたいのですが，どれがどれだか分からなくなっていました。正しいラベルをはるために，どのような順で，どんな実験をするのか，実験計画を立てましょう。

ただし，試験管の水よう液は少しずつしかないので，できるだけ少ない手順で，しかも安全な方法でなければなりません。（紫キャベツ液はもうありません。）



理科6年「水よう液の性質」

評価	ループリック
4	3に加え、実験の種類や回数が少なくて済む方法を論理的に考えている。
3	安全に，正しく水溶液を分類できる方法を考えている。
2	正しく分類できる方法ではあるが，水溶液を舐めるなどの危険な方法が含まれている。または，極端に手順が煩雑な方法。
1	正しく水溶液を分類できる方法ではない。

主体的に学習に取り組む態度の評価

「子供たちが自らの学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・表現・判断しようとしたりしているかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる」

- ・ ノートやレポート等における記述
- ・ 授業中の発言
- ・ 教師による行動観察
- ・ 児童生徒による自己評価や相互評価等

→他の観点との関連を持たせる

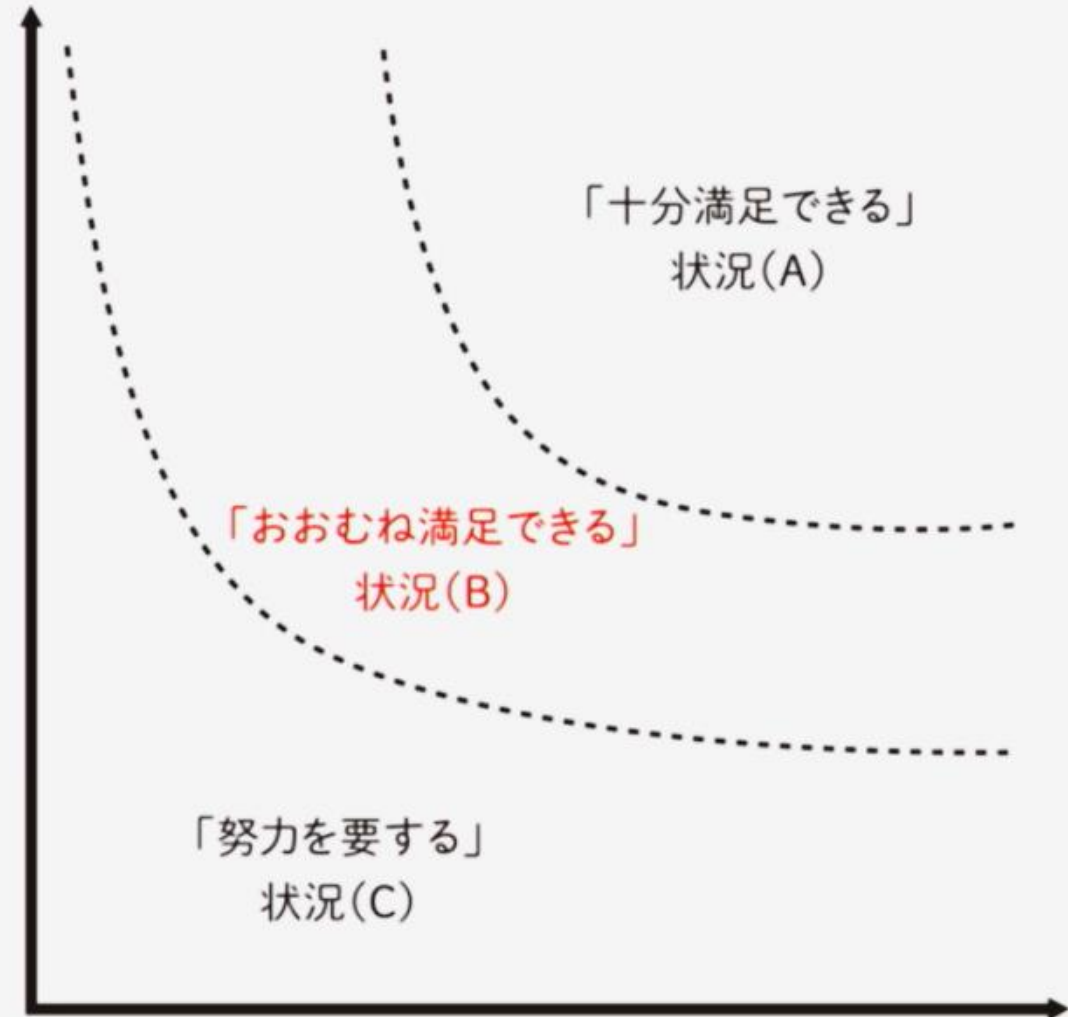
「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



②自らの学習を調整しようとする側面



①粘り強い取組を行おうとする側面

個人内評価

- 一人一人のよい点や可能性
- 進歩の状況

→積極的に評価し児童に伝える

4 観点の評価実践の傾向（石井英真『今求められる学力と学びとは』 2015）

		資質・能力の要素（目標の柱）			
能力・学習活動の階層 レベル（カリキュラム の構造）		知識	スキル		情意（関心・意欲・ 態度・人間性等）
			認知的スキル	社会的スキル	
教科等の 枠づけの中での 学習	知識の獲得と定着 （知っている・で きる）	事実に知識、技能 （個別的スキル）	記憶と再生、機械的 実行と自動化	学び合い、知識 の共同構築	達成による自己効力 感
	知識の意味理解と 洗練（わかる）	概念的知識、方略 （複合的スキル）	解釈、関連付け、構 造化、比較・分類、 帰納的・演繹的推論		内容の価値に即した 内発的関心・意欲、 教科観・教科 学習観（知的性向・ 態度）
	知識の有意意味な使 用と創造（使える）	見方・考え方（原 理と一般化、方法 論）を軸とした領 域固有の知識の複 合体	知的問題解決、意思決 定、仮説的推論を含む 証明・実験・調査、知 やモノの創発（批判的 思考や創造的思考が深 く関わる）	プロジェクト ベースの対話 （コミュニケーション）と協働	活動の社会的レリバ ンスに即した内発的 動機、教科観・教科 学習観（知的性向・ 態度）

新しい評価実践の方向性

		資質・能力の要素（目標の柱）			
能力・学習活動の階層レベル（カリキュラムの構造）		知識	スキル		情意（関心・意欲・態度・人間性等）
			認知的スキル	社会的スキル	
教科等の枠づけの中での学習	知識の獲得と定着（知っている・できる）	事実的知識、技能（個別的スキル）	記憶と再生、機械的実行と自動化	学び合い、知識の共同構築	達成による自己効力感
	知識の意味理解と洗練（わかる）	概念的知識、方略（複合的スキル）	解釈、関連付け、構造化、比較・分類、帰納的・演繹的推論		内容の価値に即した内発的動機、教科への関心・意欲
	知識の有意義な使用と創造（使える）	見方・考え方（原理と一般化方法論）を軸とした領域固有の知識の複合体	知的問題解決、意思決定、仮説的推論を含む証明・実験・調査、知やモノの創発（批判的思考や創造的思考が深く関わる）	主体的に学習に取り組む態度 プロジェクトベースの対話（コミュニケーション）と協働	活動の社会的レリバンスに即した内発的動機、教科観・教科学習観（知的性向・態度）

評価の改善のために

- 形成的評価の充実と即時的なフィードバック
- 計画的な総括的評価（時期・方法・基準）
- パフォーマンス課題やループリック等の検討